

＊3年度の改善プランの検証

学習効果測定では、前年度に比べて思考・判断・表現の正答率が数ポイント上がっていた。これは、地図の読み取りや複数のグラフ・表の比較など、資料を活用した学習活動を積み重ねてきたためと考えられる。しかし、日々の児童の様子を見ると、まだ十分とはいえない状況である。自分の知っていることや既習事項、友達の考えなどと比べて考えたり、資料からどんなことがいえるかを考えたりする時間をきちんと確保し、取り組みを重ねていくことがさらなる向上につながると考える。

＊4年度の改善プラン

観点	児童の実態（今回の調査における分析を含む）	明らかになった課題	具体的な授業改善案	
知識・技能	三年	<ul style="list-style-type: none"> 資料から情報をまとめることができるようになってきた児童が多くなってきた一方で、まだ自分なりにまとめることが難しい児童との差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 提示された資料から情報を読み取り、まとめること。 	<ul style="list-style-type: none"> どのようなことに着目して資料を見ればよいのかを指導していく。 学習したことを白地図や新聞等にまとめる活動を多く取り入れていく。
	四年	<ul style="list-style-type: none"> 「店ではたらく人」では、特に高い正答率が見られた。他の学習の問題でも、正答率が目標値を上回るものが多い。 昔と今の道具についての理解が目標値を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人々の生活の様子は時間の経過に伴い、移り変わってきたことについて理解を深めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期以降行われる「事前災害から人々を守る活動の学習」、「都内の文化・先人の働きについての学習」などを通じて、交通網の整備や公共施設の建設、土地利用の様子や人口の変化、生活に使う道具の改良など歴史と人々の生活について調べたりまとめたりする。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> 「自然災害からくらしを守る」では、資料に着目して役割を読み取ったり、防災倉庫について理解したりすることができた。 「くらしをささえる水」での浄水場の仕組みや「ごみのしよりと利用」でのごみの出し方についての理解が特に低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 国土の自然環境の特色や地域の人々の生活環境を守ることなど、人々の生活との関連を踏まえて社会生活について理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 見学に行くなど、実際に見る経験がなかったため、デジタル教材や写真資料を有効に活用して理解を深める授業を展開する。 実生活と結び付けるため、体験的な活動を通して理解を深める。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> 「日本の食糧生産」についての理解は深かった。 選択肢がある問題から回答することはできるが、選択肢がない問題では回答することが難しい様子が見られる。 校内の平均正答率は、目標値を下回っている。 特に、世界の中の国土、日本の農業、日本の水産業、自動車をつくる工業、工業生産と貿易、自然環境と国民生活についての知識・技能が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 選択肢がない問題や記述式の問題に対して、学習したことから回答すること。 各種資料を通して、必要な情報を整理してまとめる力を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことについて、関連する知識やこれまでに学習したことを再確認する活動を取り入れ、既習事項の確認をくり返し行っていく。 ICTによる映像資料などを活用していくことで、学習の補填を図っていく。
社会 思考・判断・表現	三年	<ul style="list-style-type: none"> 「くらしをお店」の学習では、自らの生活経験と結びつけて考えられる児童が多くなる。 生活経験の差により、知っていることや気づきの量が異なり、実感を伴って学習できている児童とそうでない児童の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 場所による違いや時間による経過を関連付けたり、違いに着目したりして、自分の考えを表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分事としてとらえられるような発問や学習内容を考える。 児童にとって身近にある事物の資料や題材を取り入れていく。
	四年	<ul style="list-style-type: none"> 課題について資料から関連性をとらえ表現することが難しい児童が多い。安全なくらしの問題では正答率が目標値を下回った。それ以外の問題については、同程度もしくは上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して、資料との関連があることに気づき、その資料から考える力、読み取る力をつけること。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な資料を活用する際には次のことを意識して繰り返し指導する。 ①資料を見て気が付くことを書き出す。 ②気が付くことを発表する中で問題を再度問い直す。 ③関連があることに気が付くことができるようにする。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> 「自然災害からくらしを守る活動」は特に正答率が高い。 「くらしをささえる水」は、目標値や平均を上回っているが、正答率が他の単元に比べ低い。学習したことをこれからの生活でどのように生かしていくのかを考えていく力が低いからだと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活に結び付けたり、自分が取り組めそうなことを考えたりする力をつけること。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の中で、意識的に自分の生活に関連させて考えさせる時間をもつようにする。 単元末にプレゼン形式等で既習事項をまとめることを通して、学習内容を再確認するとともに、自分の考えを併せて表現する場面を設ける。

	六年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に活用した資料を読み取り、気付いたことをたくさん書き出している。 ・資料に着目して考察する問題の正答率が低かった。 ・特に資料に着目して、日本周辺が良い漁場であることを理由を考えること、湖の汚れの変化を読み取ること、工業にさかんな地域の特色や背景を捉えることに課題があった。 	<p>資料を根拠として、変化の背景をとらえたり、理由を考えたり、対策を考えたりすること。</p>	<p>日ごろの授業から資料を扱う回数を増やし、資料から読み取れることを自分の言葉で表現する活動を取り入れていく。</p>
主体的に学習に取り組む態度	三年	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末のまとめの学習として行った新聞やポスター作りでは、進んで調べたことをまとめることができた。 ・学習問題をつくりあげることがまだ難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の一員としての意識をもって学習問題を解決しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末に「自分たちにできること」、「さらに調べたいこと」を考え学習を振り返る活動を取り入れ、学習問題に対して自分の考えをもてるようにする。
	四年	<ul style="list-style-type: none"> ・地図記号や方位をもとに目的地や土地の様子を読み取ることなど関心が高い児童が多い。安全マップを読み取る問題では、正答率が目標値を大きく上回っている。 ・記述式問題では、無解答の児童が一定数おり、調べたことや考えたことを粘り強く表現することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に身近な単元の中で、自分たちの生活にどのような関わりがあるのかを考えたり、資料から読み取ったりしたことを最後まで表現し、学習問題を解決しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の資料をじっくり読む時間や、他の資料や動画を見て調べ学習に取り組む時間、体験学習の時間などを確保して、児童の関心を高め、自分の考えをもてるようにする。 ・他教科と連携して、自分の考えを簡単に書き表す機会を増やす。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界から見た日本」や、「日本の国土」に関する学習には、地図を見て国土について、関心をもって学習に取り組む姿が見みられる。 ・農業など身近でない内容についての資料を読み取る学習では、関心が低くなり、学習意欲も低くなる傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取りながら、将来を担う国民としての自覚をもって学習問題を解決しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から自分の考えをもてるようにするために、資料の見方やそこからどんなことが分かるのか、資料を読み取る時間を十分に確保する。 ・資料だけでなく、できるだけ実物や体験などを取り入れた学習活動を展開して、関心をもって学習に取り組めるようにする。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史の学習やなじみのある国、工業に関する学習意欲は高い。 ・政治やなじみの少ない国、環境に関する分野など、自分の身近に感じることでできない学習意欲が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なじみの少ない分野であっても、国土と歴史に対する愛情をもって学習問題を解決しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主権者教育を実施したり、租税教室を行ったりすることで地域社会の一員としての自覚を高めてきた。 ・授業の導入を改善し、意欲をもたせることができるようにする。 ・体験活動を充実させたり、外国語や総合的な学習の時間を関連させ、諸外国や環境を身近なものとして考えられるように計画的に活動を行う。